

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2
学年	1年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	高等学校 改訂 科学と人間生活(第一学習社)				
副教材(出版社)	改訂 ネオパルノート 科学と人間生活(第一学習社)				
授業の概要	教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第I編 科学技術の発展  第II編 人間生活の中の科学 第1章 物質の科学 第1節 材料とその利用	科学技術の発展が人間生活にどのように貢献してきたか理解する。  日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、及び用途について理解する。 プラスチックや金属の性質や特徴、分子構造について学習し、物質の再利用方法について理解を深める。		
	2 学期	第2章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用  第3章 生命の科学 第1節 生物と光	熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用について理解する。 温度、熱の伝わり方、仕事とエネルギーについて学習し、エネルギー資源の有効利用について理解する。  植物の生育と光との関係、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解する。		
	3 学期	第4章 地球や宇宙の科学 第1節 身近な自然景観と自然災害  第III編 これからの科学と人間生活	日本列島の成因、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。 自然災害について学習し、防災について科学的に理解する。 これまで学習してきたさまざまな項目に関する課題を設定し、科学的に調査・研究を行い、論理的にレポートを作成して、的確にプレゼンテーションする。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	身近な事物・現象に関心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身に付けている。	身近な生活の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に考える。	観察、実験の技能を習得するとともに、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	科学の発展による人間生活への貢献、現代の人間生活との関連性についての知識を身につけ、これからの人間生活と科学の在り方について理解する。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				